

第 14 回日本 LCA 学会研究発表会

企画セッション

現在と 2050 年をつなげるエネルギーシナリオを考える

セッションの趣旨

我が国では、温室効果ガスの排出量を 2050 年に 80%削減するという目標を掲げており、今後、低炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの大幅な利用拡大は必要不可欠です。

再生可能エネルギーの利用は、化石燃料の消費や二酸化炭素の排出を抑制するだけでなく、雇用を生み出す、新しい産業を創り出す、国のエネルギー安全保障を高める、など様々な価値を持ち得ます。特に、地方の疲弊が加速化しつつある我が国では、将来の低炭素化社会を目指す過程において、再生可能エネルギーが地域にもたらす価値を考えることは重要と考えられます。

本セッションでは、国際情勢も不確実性を増す中で、2050 年に向けた再生可能エネルギーを中心とするエネルギーシステムに到達する道筋を多面的に議論したいと思えます。

セッションの構成

本セッションは、環境研究総合推進費（2-1804）「2050 年の社会像を見据えた再生可能エネルギー利用拡大への道筋」において得られた成果ならびに関連する内容の報告に基づき、特に「コベネフィット」を考慮した「シナリオの作成」に重点をおいて議論する予定です。

1. セッションの趣旨説明（10 分）	
2050 年の社会像を見据えた再生可能エネルギーの利用拡大への道筋	本藤祐樹（横浜国立大学）
2. 話題提供（12 分×4）（題目は仮題）	
再生可能エネルギーがもたらす地域コベネフィット	森泉由恵（横浜国立大学）
海洋エネルギー技術のコベネフィットと将来可能性	田原聖隆（産業技術総合研究所）
長期的なエネルギー供給に関するモデル分析	小澤暁人（産業技術総合研究所）
エネルギーシナリオ作成に関する一考察	福島康裕（東北大学）
3. 議論（20 分）	
セッション参加者による意見交換	参加者全員

環境研究総合推進費の研究課題 2-1804 の概要

https://www.erca.go.jp/suishinhi/seika/pdf/seika_2_03/2-1804.pdf

環境研究総合推進費の研究課題 2-1804 の実施者

本藤祐樹、森泉由恵（横浜国立大学）

田原聖隆、工藤祐揮、小澤暁人（産業技術総合研究所）